

反転授業の効果と課題
～帝京大学宇都宮キャンパスアクティブラーニング推進WGの活動から～
(ワークショップ)

オーガナイザ：高井久美子（帝京大学）

高等教育においてアクティブラーニング（AL）の導入が進められている。授業にALを取り入れると、それに多くの時間を費やして知識を伝達する時間が減ってしまい、学ぶべき事柄を伝えることが十分にできなくなってしまうのではないかという危惧がある。そこで、知識伝達量を減らさずにALを導入する方法として反転授業が注目されている。

反転授業は、授業時間内と時間外に行う学習活動を入れ替える授業形態で、授業時間の前に学習内容に関する知識を学んでおいて、授業時間中には知識を応用して問題を解くといった活動を行う。授業時間中に問題に取り組むことで、講義を聞くだけといった学習に比べて、学生が能動的に学習に取り組むことが期待できる。また、教員や仲間と一緒に学習のつまづきを解消する機会が増えることも期待できる。反転授業は国内外で実践が行われており、一例として、山梨大学では反転授業を組み合わせたALの実施により定期試験の結果に向上が見られたとの報告がある。

帝京大学宇都宮キャンパスでは、中央教育審議会の答申で示された「高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革」に対応する形でALの導入を推進しようと、2015年度からAL推進ワーキンググループを立ち上げた。その活動の中では反転授業も重視しており、いくつかの反転授業が開始された。一方で反転授業の導入にあたっては、教員の授業準備の負担に対する不安、授業中にどのようなALを行ったらよいのかといった不安の声も聞かれる。

このワークショップでは、反転授業の実践事例を共有し、よりよい実施方法を検討する目的で、反転授業を行っている方々に実践事例を紹介していただき、反転授業のよさと課題について議論したい。反転授業の実践方法、準備や学習活動、学生の学びの様子などを情報共有し、そのよさを知るとともに、問題点については、フロアからの質問や助言、議論を通じて、解決のためのヒントや解決に向けた糸口を得ることができればと考えている。

講演：

「学生の学びの活性化に向けて ～一教員の小さな努力の軌跡～」 森一俊（帝京大学）

「英語の共同学習と反転授業」 安原正貴（帝京大学）

「物理学1における反転授業導入事例の紹介」 渡部武夫（帝京大学）